



関沢小だより



校長 藤谷 健二

【 関沢小スマイルが沢山あふれる幸せ満開の2学期に 】

今日から2学期が始まり子供達の元気な笑顔と声が戻ってきました。2年ぶりに長い夏休みとなり、更に1週間休みが増えたことでより多くの経験をすることができたと思います。みんな背が伸びて、久しぶりに会う友達と楽しそうにはしゃぐ姿があちらこちらで見られました。

数々のドラマが生まれた東京オリンピックが幕を閉じました。日本は過去最大のメダルの数を獲得するなど世界にあってはひけを取らない選手達の活躍が光りました。

その中でも特に印象に残っているのが、柔道男子73キロ級でオリンピック2連覇を果たした大野将平選手です。決勝では延長の末、技ありからの優勢勝ちを収めました。9分間の戦いを終えたあと、日本武道館の天井を見上げ、偉業達成の余韻に浸る姿がありました。そして、試合後のインタビューでは「苦しくてつらい日々を凝縮したような戦いでした。」と振り返り、続けて「理想を体現することの難しさを感じました。自分はまだまだだだと思います。」と述べていました。世界の頂点に立ち、しかもオリンピック2連覇を果たした選手がこのようにコメントしたことに驚きました。心技体の全てを会得してこそ真の実力者と言われる柔道の世界。勝つてなお己の未熟さに向き合い鍛錬しようとする姿に胸が熱くなりました。

10代の選手達の活躍も多く見られました。新種目のスケートボード女子ストリートに出場した西矢栞選手は、なんと国内史上最年少の13歳での金メダル獲得でした。まだあどけなさが残る女の子ですが、「もみじスマイル」が満開となり「世界で知らない人がいないくらい有名なスケーターになりたい」と大会前に夢を語っていたそうですが、一夜にして世界一有名なスケーターとなりました。6歳の頃からスケボーに乗り始め「楽しくなければ続かない」との父の考えで一日4時間程度の練習をしていたそうです。それでも多いと思いますが楽しく取り組んだことが実を結びました。

メダルラッシュに沸いた一方で、金メダル有力視とされながらも頂点に届かなかった選手やチームも多くいました。一番を目指し何年も何十年も努力を積み重ね、来る日も来る日も練習に励み、ライバルを倒してようやくつかんだチャンスだったことでしょうか。力を発揮できず、敗戦にくちびるを噛みしめる選手達の姿がありました。経験した者にしか分からない世界がきっとあると思います。世界の一流同志が競うオリンピックの舞台。金メダルの輝きの裏で、多くの悔し涙があったのでしょうか。

パラリンピックでも多くのメダリストが誕生しています。今後の活躍にも期待しています。

学校生活も「楽しくなければ続かない」と思います。そのためこの夏も2学期以降の授業や教育活動に生かせる内容の教員研修を充実させました。トイレや流しを教職員で綺麗に磨き環境を整備しました。また、大型テレビも設置され、プールの修繕工事も終わりました。関沢小学校の子供達が、大野選手のように挑戦し、西矢選手のような笑顔にあふれ、「関沢小スマイル」が沢山あふれるそんな幸せ満開の2学期になるように教育活動を進めてまいります。

分散登校となりますが、引き続き、保護者の皆様にも感染症防止のための毎日の検温と健康管理へのご協力をお願いいたします。

